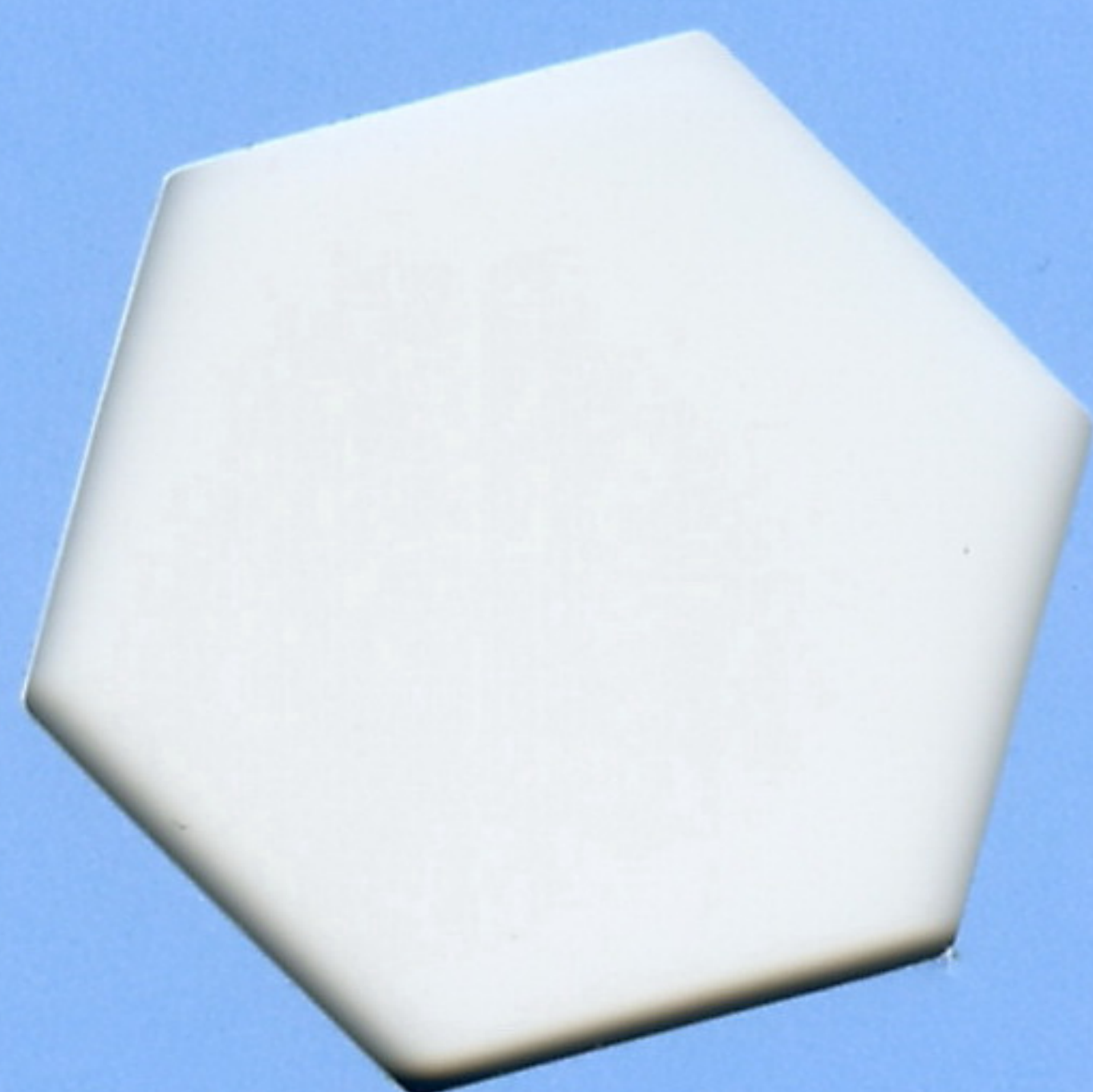


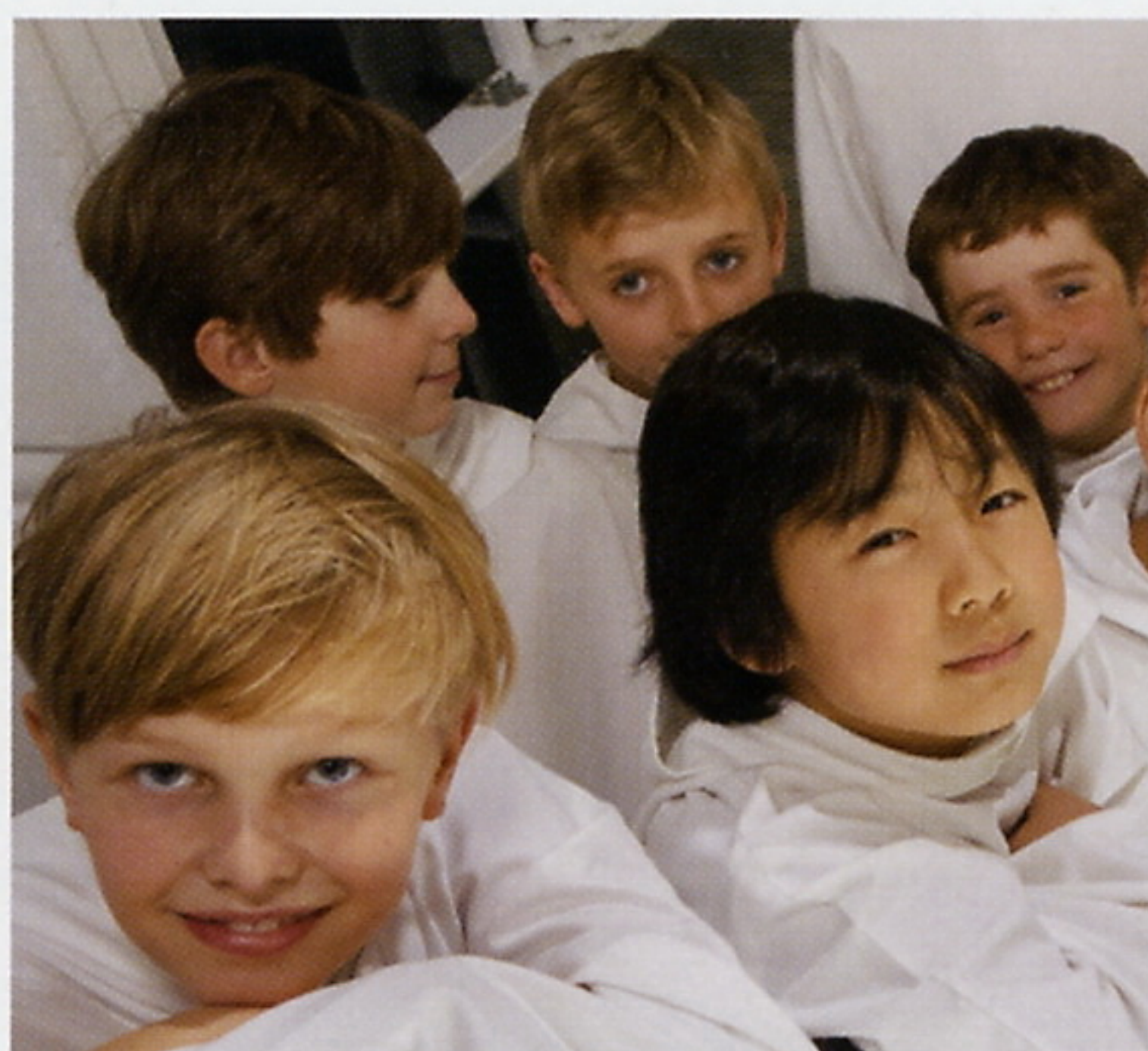
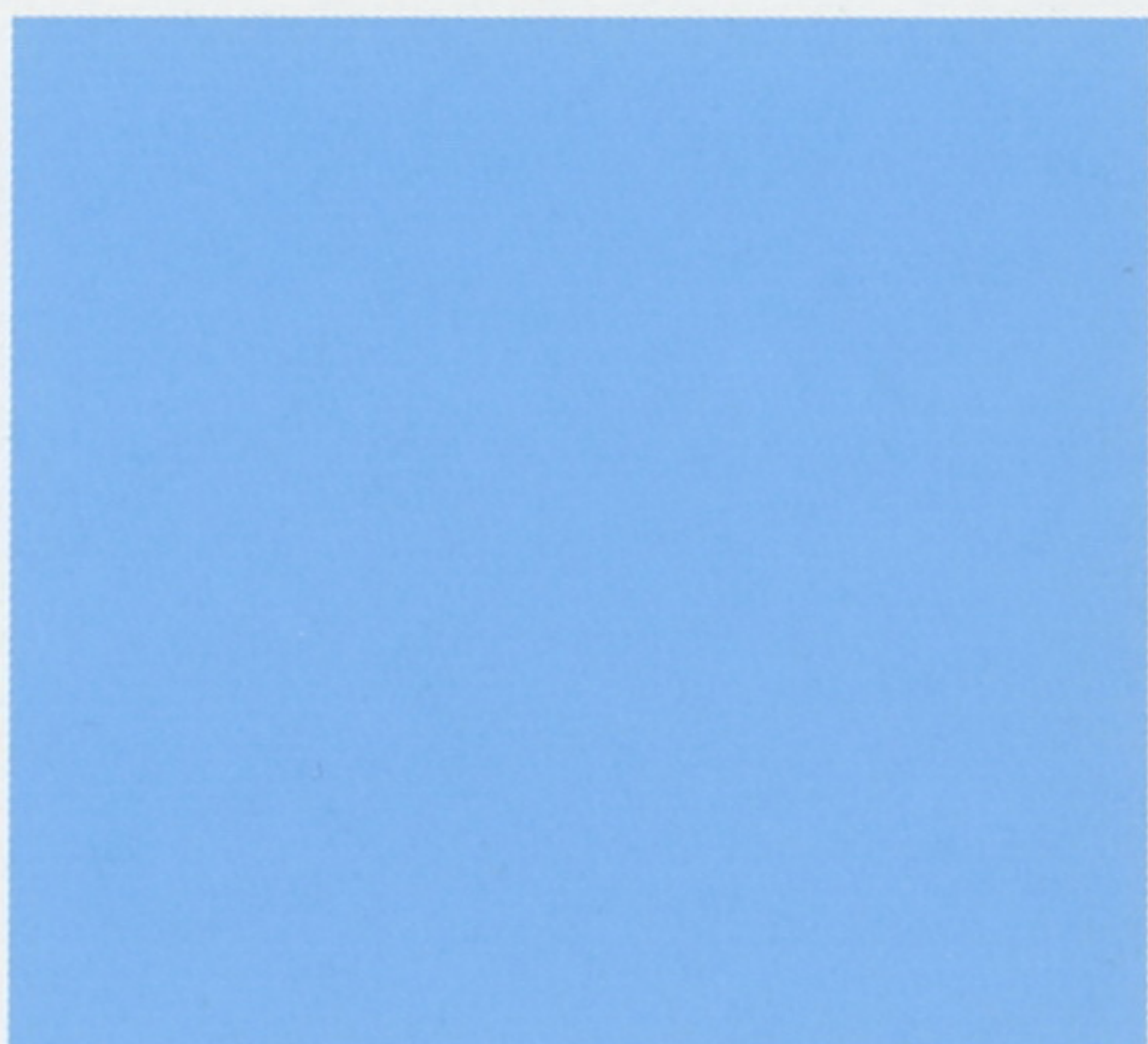
JAPAN●2017



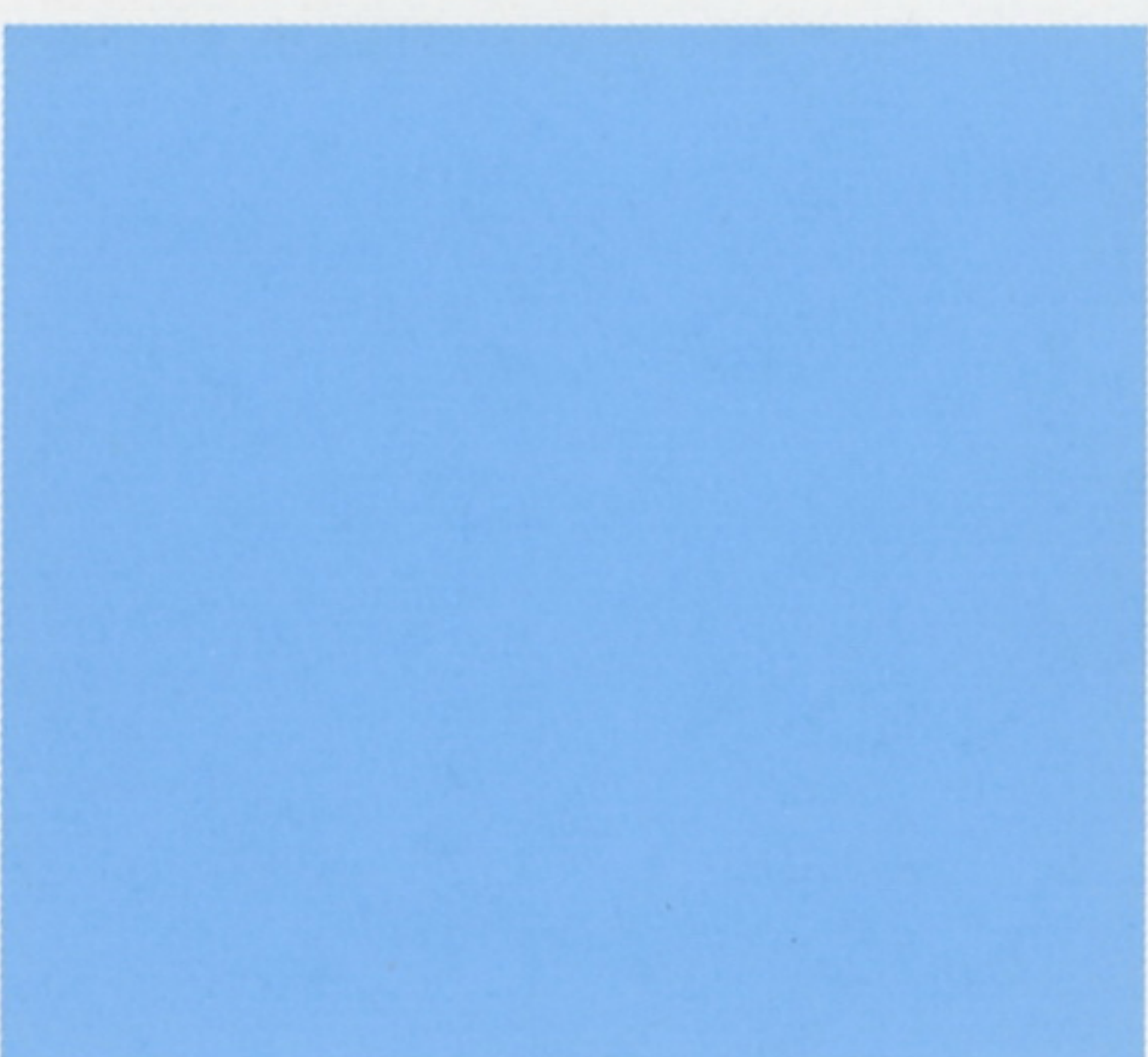
LIBERA

Angel Voices Tour 2017 "Hope"





LIBERA
Angel Voices Tour
2017 "Hope"



LIBERA

Angel Voices Tour 2017 “Hope”

主催: KAJIMOTO

協力: Wisteria Project / LIBERA RECORDS / **mbs**

後援: **FM802**
meet the music on the radio

リベラは “Hope makes future” Project を応援しています。

協賛: 株式会社 資生堂 / ウチダエスコ株式会社

資生堂ライフクオリティービューティーセンター

株式会社メディネット / 株式会社スヴェンソン

TOKYO

5/29 (月) 19:00

Bunkamura オーチャードホール

Monday, May 29, 2017 at 7 p.m.

Bunkamura Orchard Hall

5/30 (火) 19:00

Bunkamura オーチャードホール

Tuesday, May 30, 2017 at 7 p.m.

Bunkamura Orchard Hall



OSAKA

6/2 (金) 19:00

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

Friday, June 2, 2017 at 7 p.m.

Osaka International Convention Center



PROGRAM

サン・ダミアーノ

San Damiano

サンクトゥス

(パッヘルベルの「カノン」による)

Sanctus

故郷を夢見て

～映画「戦場のアリア」

I'm Dreaming of Home
from "Joyeux Noel"

フロム・ア・ディスタンス

From A Distance

アンジェレ・デイ

Angele Dei

彼方の光

Far Away

サクリス・ソレムニス

(ベートーヴェン:
交響曲第7番 第2楽章から)
Sacris Solemnis

この素晴らしき世界

Wonderful World

リベラ

Libera

* * *





ディエス・イレ
Dies Irae

ジョイフル・ジョイフル
(ベートーヴェン:
交響曲第9番 第4楽章から)
Joyful Joyful

天使のくれた奇跡
Angel

サルヴァ・メ
Salva Me

アメイジング・グレイス
Amazing Grace

永遠
Sempiterna

さすらいの旅人
Wayfaring Stranger

スマイル
Smile

エクスルターテ
Exultate



LIBERA

Angel Voices Tour 2017 “Hope”

MESSAGE

from Robert Prizeman *Music Director*

皆さまへ

リベラのコンサートへようこそ！

リベラが初の海外公演を行った国、日本で、再び演奏できることを心から嬉しく思います。2005年に初来日公演が実現して以来、私たちは世界中のさまざまな国々を訪れ、沢山の人たちに歌をお届けしてきました。しかしリベラは、こうした数々のエキサイティングな海外ツアーにのぞみながらも、私たちの音楽が日本を通じて広く知られるようになったことを、ひとときも忘れていません。リベラは、日本のファンの皆さまが当初からお寄せくださっている信頼と、ゆるぎないご支持に、絶えず感謝しています。

このたびの公演では、リベラの有名な人気曲《サンクトゥス》、《彼方の光》、《サルヴァ・メ》はもとより、《天使のくれた奇跡》など、近年に発表した曲も取り上げます。さらに、ニュー・アルバム『Hope』に収められているリベラの最新曲を初披露いたします。

恒例となりましたが、新メンバーたちのソロをお聴きいただく機会があります。これまでのアル



バムではソロ・パートを歌っていたメンバーたちが、今回は舞台の奥に立って、低音でハーモニーを支える姿もご覧いただくことになるでしょう。このようなソリストの変更は、ボーイ・ソプラノ・グループならではの習慣です。皆さまには、新たなパフォーマンスをお楽しみいただければ幸いです。おなじみのメンバーたちがソロ・パートを歌い続けられないことは確かに残念ですが、リベラにおいては、メンバーたちが何らかの形でグループのために能力を活かし続けてくれることが、喜びともなっています。数年前にリベラの白い衣装を着て舞台中央で歌っていた子どもたちや青年たちが、バック・ミュージシャン、音響あるいは舞台スタッフとして、今回のツアーに参加してくれているのです。彼らは現在、新たな才能をプロデュース・育成する手助けをしています。ですからリベラは、大きな——そして幸せな——ファミリーに喩えられるでしょう。

私たち「リベラ・ファミリー」がお届けする音楽を、お気に召していただけますように！

LIBERAミュージック・ディレクター
ロバート・プライズマン

Hallo Everyone.

Welcome to our Libera concert!

We are so happy once again to be back in Japan, our very first destination for international Libera tours. We have travelled all across the world to many countries, and sung to millions of people since our first journey brought us to Japan in 2005, but with all our exciting new travels, we never forget that it was through Japan that our music first became widely known, and we are always grateful for the faith that our fans here invested in 'Libera' in the early days and for the wonderful support which you continue to give us.

In our concert, we are singing many of the popular Libera songs including some of our very well-known pieces, like 'Sanctus', 'Far Away' and 'Salva Me'; alongside more recent compositions like 'Angel'. But you will also hear for the first time in a public performance some of our newest music, which is included on the brand new Libera album 'HOPE'.

As always you will hear new boys singing songs which, from the recordings, you may have associated with other soloists who may now be standing further back on stage, and singing lower harmonies. It is in the nature of a boys' group that soloists will change, so we hope you enjoy the new interpretations. If there is a sadness that the boys do not continue to sing their solo parts, there is also a joy that a group like ours can continue to benefit from their talents. So tonight, you will find amongst our musicians, and amongst our sound and stage crew, boys and young men who, a few years ago, would have been wearing their white robes in the middle of the stage. Now they help produce and foster the new talent. So it is like a large - and happy - family.

We hope you like the music our family makes!

Robert Prizeman



LIBERA

Angel Voices Tour 2017 "Hope"

MEMBERS

マーク・アルヴァレス
Marc Alvares

リオ・バロン
Leo Barron

マーリン・ブラウワー
Merlin Brouwer

ベネディクト・
バイウォーター
Benedict Bywater

ゲイブリエル・
コリンズ
Gabriel Collins

タイグ・
フィッツジェラルド
Tadhg Fitzgerald

アレクサンダー・
グーラ
Alexander Gula

アダム・イズグーティ
Adam Izghouti

ピーター・キールティ
Peter Kielty

アイザック・ロンドン
Isaac London

グレゴリー・ラムズデン
Gregor Lumsden

アレサンドロ・
マキノン=ボッティ
Alessandro
Mackinnon-Botti



ジェームス・メネゼズ
James Menezes

アレクサンドル・
メヌエット
Alexandre Menuet

アレクサンダー・
モントーロ
Alexander Montoro

マティアス・モントーロ
Mathias Montoro

オリヴァー・マイカ
Oliver Mycka

アーサー・パーマー
Arthur Palmer

ニオ・パーソン
Neo Parson

忍久保 太一
Taichi Shinokubo

カムデン・スチュワート
Camden Stewart

ローレンス・テイラー
Laurence Taylor

ロッコ・テサイ
Rocco Tesei

ロメオ・テサイ
Romeo Tesei

ヴィクター・ウィッギン
Victor Wiggin

ヴァイオリン：伊藤 友馬 法常 奈緒子
1st Violin : Yuma Itoh / 2nd Violin : Naoko Noritsune

ヴィオラ：館泉 礼一
Viola : Reiichi Tateizumi

チェロ：林田 順平
Cello : Junpei Hayashida

コントラバス：高杉 健人
Contrabass : Kento Takasugi

フルート：イーマー・マガウン
Flute : Eimear McGeown

オーボエ：森 綾香
Oboe : Ayaka Mori

クラリネット：山根 公男
Clarinet : Kimio Yamane

ホルン：所村 映李
Horn : Eri Shomura

ピアノ：サイモン・ベストン
Piano : Simon Beston

パーカッション：ジョン・オームストン
Percussion : Jon Ormston

リベラのこと

高坂 はる香(音楽ライター)

Haruka Kosaka

イギリス、サウスロンドンを拠点に活動するボーイ・ソプラノ・ユニット「リベラ」は、一般的な少年合唱団や聖歌隊とは少し違う。その理由は、取り上げるレパートリーが聖歌や民謡だけでなくオリジナル曲も多いこと、少年たちの歌唱が独特の方法でトレーニングされた特別なものであること。そしてとくに大きな違いは、人類が昔から普遍的に求めるものを大切にしながらも、今の時代を鋭敏にとらえた音楽を届けているということにあるだろう。

1984年に発足したセント・フィリップス少年聖歌隊は、エンジェル・ヴォイセズに改名したのち、1998年、ラテン語で自由の意味を持つ「リベラ」の名で新たなスタートを切った。自ら聖歌隊の出身であるロバート・プライズマン氏は、より自由な音楽表現を目指してリベラを誕生させ、プロデューサーとしてその独特のサウンドを磨き上げてきた。

オーディションで選ばれた7歳から16歳までの少年たちはみな、ステージに立つとプロフェッショナルの表情を見せ、無垢な歌声と研ぎ澄まされたパフォーマンスを披露する。儚く美しいボーイソプラノに変声後のメンバーが担当する低音部が重なり、厚みのあるハーモニーが生まれる。聖歌やクラシックの旋律に洗練されたアレンジが施されたリベラ・サウンドは、現代を生きる私たちの心にずっと入りこみ、ときには気持ちを洗い流し、ときには優しく温めてくれる。

リベラが活動を続けてきた20年の間に、世の中は大きく変化した。テクノロジーが発達してあらゆる利便性が向上した一方で、世界

の紛争はおさまることなく、各地でテロが頻発するようになった。リベラの拠点であるロンドンが標的となった事件も記憶に新しい。そしてテクノロジーがどれだけ進歩しようとも、自然の脅威は大昔から変わることがない。

リベラは2016年1月、浅田真央プロデュースによる東日本大震災被災者によせるプロジェクト「ジュピター〜未来への光」に参加し、被災地の仮設住宅を訪れて歌のプレゼントをした。こうした経験により、リベラの音楽は、心を癒すだけでなく、困難な時代を歩んでゆく





力を与えるメッセージをも自然と強くしていった。めまぐるしく変化する時代の中で、人が今求めているもの、昔から変わらずに求めているもの、リベラの音楽はその両方を届けようとしている。

リベラの今の想いは、日本ツアーに合わせてリリースされた6年ぶりのスタジオ録音のタイトルが「HOPE」であることにも表れている。今回の公演では、この新アルバム収録曲から多くの楽曲が演奏される。そのサウンドと

言葉からは、困難の中で現実にも目を向ける勇気、希望に向かって進んでゆく勇気を与えるメッセージが感じられるだろう。

本日演奏される曲目には、20代の青年に成長した元メンバーがアレンジを手掛けているものも多い。時の流れとリベラの進歩は、そんなところにも表れている。

1年半ぶりの来日公演。少年たちが歌声とともに放つ大きなエネルギーを、存分に受け取りたい。

曲目紹介

サン・ダミアーノ

San Damiano

サン・ダミアーノは聖なる地の名。イギリスのヴォーカリスト、サル・ソロが作詞作曲を手掛けた。

サンクトゥス

Sanctus

澄み切った“聖なるかな”の歌声に始まる。バロック時代の作曲家、ヨハン・パッヘルベルの「カノン」のメロディによる楽曲。

故郷を夢見て ～映画「戦場のアリア」

I'm Dreaming of Home from "Joyeux Noel"

第一次世界大戦を舞台とした映画「戦場のアリア」(2005年)テーマ曲。戦場から故郷の家族を想う兵士たちの心情が歌われる。

フロム・ア・ディスタンス

From A Distance

シンガーソングライターのジュリー・ゴールド作詞作曲。平和を祈る歌として愛され、多くの歌手がカバーしている。

アンジェレ・デイ

Angele Dei

人間を守り導く守護天使への祈りを捧げる聖歌の歌詞に、LIBERAのプロデューサーであるロバート・プライズマンが静かで劇的な音楽をつけた。



彼方の光

Far Away

プライズマンが信頼を寄せる村松崇継が作曲を、プライズマンが作詞を手掛けた。2006年に放送されたNHK土曜ドラマ「氷壁」主題歌。

サクリス・ソレムニス

Sacris Solemnis

讃美歌の詩句「サクリス・ソレムニス」(聖なる儀式)の一節と、ベートーヴェンの交響曲第7番第2楽章アレグレットのテーマによる楽曲。

この素晴らしき世界

Wonderful World

ジョージ・ダグラス作詞作曲、ルイ・アームストロングが歌ってヒットした「この素晴らしき世界」のカバー。ベトナム戦争の最中、平和を願って書かれた楽曲。

リベラ

Libera

プライズマン作詞作曲。伸びやかで力強いこの楽曲は、自由の名を冠したリベラのテーマ曲ともいえる。



ディエス・イレ

Dies Irae

キリスト教最後の審判の日である「怒りの日」。その典礼文と旋律を取り入れた楽曲。

ジョイフル・ジョイフル

Joyful Joyful

ベートーヴェンの交響曲第9番「歓喜の歌」のテーマにヘンリー・ヴァン・ダイクが詩をつけた讃美歌。

天使のくれた奇跡

Angel

村松崇継作曲。2015年ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®「ユニバーサル・ワンダー・クリスマス」タイアップ曲。

サルヴァ・メ

Salva Me

神への救いと自由を求める、プライズマン作詞作曲による楽曲。2001年に放送されたNHKドラマ「ある日、嵐のように」主題歌として使用された。

アメイジング・グレイス

Amazing Grace

18世紀イギリスの牧師、ジョン・ニュートン作詞による讃美歌で、作曲者は不明。神の素晴らしい恩寵を讃える。

永遠

Sempiterna

神に救いと永遠の世を祈る、瞑想的な楽曲。プライズマンの作曲。

さすらいの旅人

Wayfaring Stranger

さすらい旅人の哀しみを歌うアメリカ民謡。重厚な響きが、さすらい人の力強い歩みを表現するよう。

スマイル

Smile

チャップリンが作曲した、映画「モダン・タイムス」のテーマ曲。リベラ版は、優しく神秘的な微笑みとなっている。

エクスルターテ

Exultate

プライズマン作曲、ヘンリー・バートン作詞。ウェールズの山々が光に包まれるさまから着想を得て書かれた、歓びに満ちた詩による歌。

(高坂 はる香)











LIBERA

Angel Voices Tour
2017 "Hope"



イ・ムジチ合奏団
with 小松亮太(バンドネオン)

I Musici with Ryota Komatsu

7月7日(金) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

永遠のベストセラー「四季」のイ・ムジチと、日本におけるバンドネオンの旗手・小松亮太の出会い。「ラテン」を感じるコンサート！



■バンドネオン: 小松亮太

■曲目: ピアソラ: ブエノスアイレスの四季

ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲集「四季」 op. 8

料金: S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,000
D¥3,000

共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

ルツェルン祝祭管弦楽団
指揮: リッカルド・シャイー

Lucerne Festival Orchestra

10月6日(金) 19:00 サントリーホール

10月7日(土) 17:00 サントリーホール

10月8日(日) 15:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

10月9日(月・祝) 15:00 京都コンサートホール

新音楽監督に率いられ、伝説のスーパー・オーケストラ、11年ぶりに再来日！

■曲目:

[10/6]

ベートーヴェン:

劇音楽「エグモント」 op. 84 序曲

交響曲第8番 へ長調 op. 93

ストラヴィンスキー: バレエ「春の祭典」

[10/7,8,9]

R. シュトラウス: 交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」 op. 30

「死と変容」 op. 24

「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」 op. 28

[10/6] 特別協賛: THE ADECCO GROUP

[10/8] 共催: ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

[10/9] 共催: 京都市/京都コンサートホール

(公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団)

料金: [10/6,7,8] S¥35,000 A¥31,000 B¥27,000
C¥23,000 D¥18,000

[10/9] S¥30,000 A¥26,000 B¥22,000
C¥18,000 D¥13,000



デトロイト交響楽団 指揮: レナード・スラットキン

Detroit Symphony Orchestra

■指揮: レナード・スラットキン ■デトロイト交響楽団

全米指揮界の“父”として楽団を率いてきたスラットキン率いるアメリカの名門オーケストラと、近現代の名曲を共演。

7月16日(日) 14:00 ザ・シンフォニーホール(大阪)

■ピアノ: 小曽根真

■曲目: バーンスタイン: 「キャンディード」序曲

C. マクティエ: ダブルプレー

ガーシュウィン: ラブソティ・イン・ブルー※

チャイコフスキー: 交響曲第4番 へ短調 op. 36

※小曽根真演奏曲

料金:

S¥14,000 A¥11,000

B¥8,000 C¥6,000

主催:

KAJIMOTO/朝日新聞社

第5回 国際音楽祭NIPPON

7月19日(水) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール: タケミツメモリアル

■ヴァイオリン: 諏訪内晶子

■曲目: 武満徹: 遠い呼び声の彼方へ! ※

コルンゴルト: ヴァイオリン協奏曲 二長調 op. 35 ※

チャイコフスキー: 交響曲第4番 へ短調 op. 36

※諏訪内晶子演奏曲

料金: S¥15,000 A¥13,000 B¥10,000

C¥7,000 学生¥3,000



チケットのお申込み・会員登録は

カジモト・イープラス
(ご住所・お名前など変更のご連絡も)

www.kajimotoeplus.com/

コンサート関連情報や現場レポートなども満載 (パソコンもケータイも同じアドレス)。

0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター (10:00~18:00) もご選択いただけます。

f Instagram YouTube は「Kajimotomusic」で検索!

@kajimoto_News

iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応 チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス

カジモト・イープラス

検索





LIBERA

Angel Voices Tour
2017 "Hope"







STAFF

Music Director :
Robert Prizeman

Assistant Musical directors :
Sam Coates &
Steven Geraghty

Sound mixing & production:
Sam Coates

Lighting :
Luke Avery

Stage management:
Kavana Crossley

Stage direction :
Steven Geraghty

Libera co-ordination and
chaperones:
Barbara Geraghty &
Eleanor Lewis

Production co-ordinator:
Andrew Winter

Photography:
Andy Jones
Simon Armstrong
Sian Salt
Kavana Crossley
Luke Avery

舞台監督 :
アートクリエイション 蒲倉 潤

舞台監督助手 :
三宅 周

照明 :
劇光社 高木 正人

音響 :
ヒビノ 井関 順平

通訳 :
石井 園子

LIBERA Angel Voices Tour 2017 "Hope" プログラム

May 29, 2017 Published by KAJIMOTO Editor: 石川 篤 (KAJIMOTO) Designer: 大宮 有未 (icomm Co.,Ltd.) Printing: ISHIDA TAISEISHA INC.

©KAJIMOTO *複製ならびに無断での引用、転載、コピーを禁じます。

心にそっと寄り添うリベラのハーモニーは、
いつも心の奥底まで、希望、を届けてくれる。

LIBERA

Hope

LIBERA Hope

「天使のくれた奇跡」

(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®「ユニバーサル・ワンダー・クリスマス」テーマ曲)、
「ジュピター〜未来への光(浅田真央プロデュース)」収録。

CD

- 1 サルヴェ・レジーナ (Franz Schubert/Traditional/Robert Prizeman)
- 2 サン・ダミアーノ (Sal Solo)
- 3 スマイル (Charlie Chaplin/Geoffrey Parsons & John Turner/Sam Coates)
- 4 スターバト・マーテル (Robert Prizeman/Traditional)
- 5 故郷を夢見て〜映画『戦場のアリア』 (Philippe Rombi/Lori Barth)
- 6 天使のくれた奇跡 (Takatsugu Muramatsu/Robert Prizeman)
(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®「ユニバーサル・ワンダー・クリスマス」タイアップ曲)
- 7 フロム・ア・ディスタンス (Julie Gold/Sam Coates)
- 8 アンジェレ・デイ (Mark McKenzie/Traditional)
- 9 ベネディクトゥス・デウス (Robert Prizeman/Traditional)
- 10 三羽の鴉 (John Harle/Traditional)
- 11 聖母マリアのための讃歌 (Beth Nielsen Chapman)
- 12 愛を誓えば (Robert Prizeman/Traditional)
- 13 ホーム (Takatsugu Muramatsu/Robert Prizeman)

Bonus Track

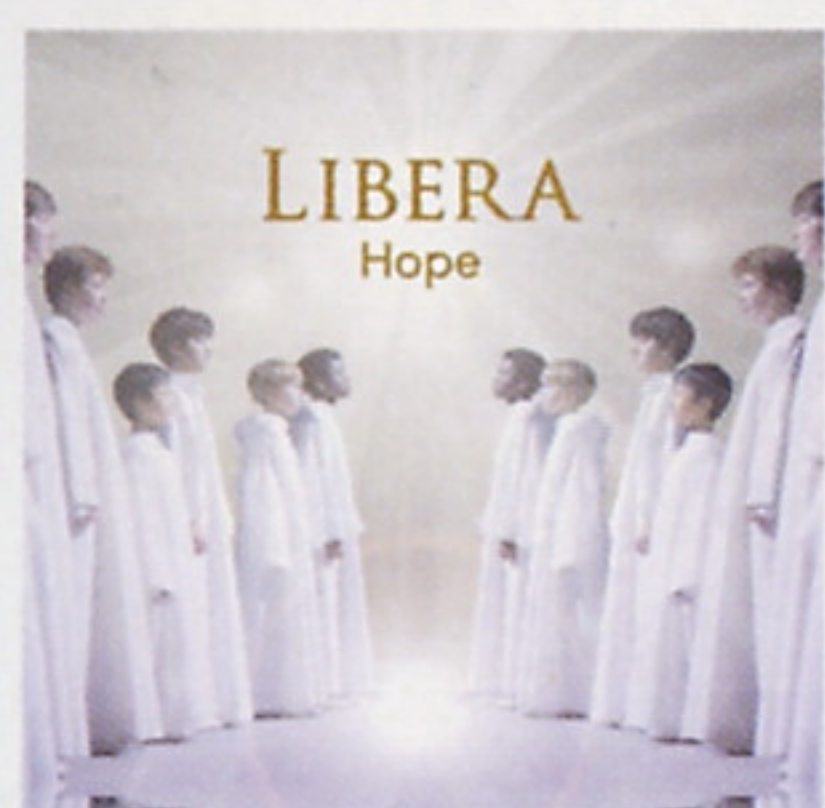
- 14 ジュピター〜未来への光(浅田真央プロデュース)
(Gustav Holst/Cecil Spring-Rice & Mao Asada/Robert Prizeman)
- 15 さすらいの旅人 (Traditional/Sam Coates) (通常盤)

DVD (初回限定盤)

- * サルヴェ・レジーナ music video
- * スマイル music video



初回限定盤 CD+DVD LIBE-6-7 ¥3,300+税



通常盤 CD LIBE-8 ¥2,800+税

<http://libera-records.com>

制作・発売：LIBERA RECORDS
販売：ソニー・ミュージックマーケティング

下記CD、写真集も LIBERA RECORDSより発売中！

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®
「ユニバーサル・ワンダー・クリスマス」
タイアップ曲
天使のくれた奇跡 | リベラ



CD+DVD LIBE-1-2 ¥2,000+税

浅田真央プロデュース
ジュピター〜未来への光〜
歌：リベラ



CD LIBE-5 ¥1,100+税

LIBERA Photo Book



A4 ハードカバー オールカラー 128p
価格 4000円+税



リベラ LIBERA

リベラはサウスロンドンを拠点とする少年合唱団。所属する少年たちは、普段は“ふつう”で“平凡”と言われている子どもたちだが、ひとたび彼らの録音やパフォーマンスを聴けば、その音楽はただものではないことがわかる。

世界的に有名な彼ら独特のサウンドは、古風でもあり現代的でもあると定評がある。シンボルとなっている純白のローブは古くからの伝統的スタイルの原点であり、その音楽は今やあらゆる世代のメインストリームの聴衆に受け入れられている。ユニークな“ボーイ・バンド”の桁外れな人気ぶりは、世界中のアルバム・チャートでの大成功が証明するとおりである。多くの国々で活動を展開しており、特にアメリカ、カナダ、ロシア、イギリス、日本、フィリピン、台湾、シンガポール、韓国などでは、毎回熱狂的なファンたちを魅了している。

イギリスでは、テレビ出演をはじめ、ロンドンのクイーン・エリザベス・ホールやロイヤル・アルバート・ホール、グラッシントン・フェスティバルやアビー・ロード・スタジオ、数々の大聖堂と

いった会場でのコンサートを通じて有名な存在となっている。BBCの番組『ラスト・クワイア・スタンディング』へのゲスト出演や、『ソングス・オブ・プレイズ』での彼らのドキュメンタリー、さらにサタデー・ナイト・ショー『ウェン・ウィル・アイ・ビー・フェイマス』では勝者となるなど、テレビ番組への出演も多い。このほかにも第一次世界大戦の追悼番組では、メンバー数人が紛争で戦った彼らの祖先をたどり、フランスとベルギーで追悼歌を歌うコンサートを行った。また、『BBCブレックファスト』や『クリス・エヴァンス・ショー』などのテレビ番組にも登場。クラシックFMでは彼らの歌が頻繁に流れている。昨年のクリスマスには、iTunesでクラシック・ソングのダウンロード数が第1位を記録した。

最近のヨーロッパ・ツアーでは、ポーランドのクラクフで開催されたワールド・ユース・デイに参加し、満員の巡礼者の群衆の中、リベラ史上最多の聴衆150万人を前に歌った。また、コブレンツ近郊のシェーンシュタット聖堂でも歌い、これがドイツ・デビューとなった。

アメリカとカナダでは、全国放送のPBSスペシャルズ、NBC『トゥデイ』、『トゥナイト・ウィズ・ジェイ・レノ』といったテレビ番組への出演やコンサート・ツアーを通じて名が知れ渡っている。アメリカでは、ケネディ・センター名誉賞授賞式への出演でデビューを飾り、受賞者であるザ・ビーチボーイズのブライアン・ウィルソンへの賛辞として当時のブッシュ大統領や著名人たちの前で歌を披露した。また、ローマ教皇ベネディクト16世が初めて訪米した際には、ニューヨークのヤンキー・スタジアムで行われたこの歴史的イベントで、教皇によるミサにイギリスから唯一のゲストとして参加し、6万5千人の信徒の前で歌った。数回にわたるアメリカ・ツアーでは、カリフォルニア州のクリスタル・カテドラル、セントルイス大聖堂、ミネアポリスのセント・ポール大聖堂、シカゴのムーディー教会、ニューヨークのリバーサイド教会ほか、宗教的、非宗教的にかかわらず、テキサスからトロントまであらゆる場所でコンサートを行ってきた。ミネソタ州ミネアポリスとセント・ポールで行われたスターキー・ヒアリング財団ガラではオープニングを飾り、マイリー・サイラスやミートローフらと共に参加した。北アイルランドのアーマーにある聖パトリック大聖堂（アイルランド教会）でのコンサート『クリスマス・イン・アイルランド』や、ワシントンDCのワシン

トン国立大聖堂でのスペシャル・パフォーマンスの様子は、PBSネットワークで頻繁に放送され、リベラは同テレビ局のトップ・アーティストとなっている。2015年春には、東はボストンから西はサン・アントニオまで、北はシカゴから南はアトランタまで、精力的にツアーを展開した。

東南アジアでは、テレビやラジオでリベラの音楽が頻繁に放送され、日本、韓国、台湾、シンガポール、フィリピンなどでCDがクラシックおよびポップ・チャートで大ヒットしているだけでなく、映画やテレビ番組にも多く起用されている。2015年、日本では、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®のクリスマスのテーマ曲に起用されてTVコマーシャル等で使われ、「ユニバーサル・ワンダー・クリスマス」のオープニングでは1万人を超える来場者の前で、クリスマス・ソングを披露した。

リベラのメンバーたちは、映画のサウンドトラックやCDの録音、スーパースターたちのバックコーラスなどの活動で世界中を飛び回っているが、あるメンバーはこう話す。「旅することや映像を撮ってもらうことは楽しいけれど、もしどこへも行かないとしても、ただ歌うことが大好きだからリベラで歌っていたいんだ」。

リベラの音楽 THE MUSIC OF LIBERA

リベラとは、“自由”という意味を表すラテン語で、音楽的境界線を越えて自由に活動するという意味が込められている。伝統にとらわれないレパートリーや革新的なテクスチュア、独創性あふれるアレンジなど、彼らの創意に富んだ音楽的アプローチは、音楽界に新風を吹き込んでいる。リベラ・サウンドの核となるのは、興奮と熱意のこもったクリアな少年たちの声であり、人の心に残る活気に満ちた高音ヴォイスは、古くから特に教会の合唱音楽の代名詞となってきた。確かにリベラの特徴は、合唱音楽最初期の原型であるプレインチャント（単旋律聖歌）と呼ばれる大聖堂や修道院の古代音楽を起源に発展した形である。視覚的にも少年たちが着ている純白のローブがこの歴史を物語っており、中世の修道院で歌い、学んでいた男子修道士が身につけていたローブをかなり忠実に再現したものとなっている。リベラの音楽は、伝統的なチャントと現代の楽器編成やアレンジを融合させたスタイルである。したがって、『サルヴァ・メ』や『リベラ』といった曲では、古代のプレインチャント形式や雰囲気を残しつつ、新しい歌詞とハーモニーを取り入れて歌っている。また、レパートリーの中には、よく知られたポップスやクラシックの曲をアレンジしたものもある。どの作品も原曲に勝ることはできないが、彼らの高音ヴォイスの希望にあふれたサウンドとハーモニーは、オリジナルとはまた違った良さを生み出している。例えば、『サンクトゥス』では、名曲パッヘルベルの『カノン』を元にして最高音が生かせるようアレンジが施されている。

